

土浦平和の会

ニュースNO・93 2000年8月

発行 土浦平和の会
事務局 土浦市神立町2664-2
TEL 31-9122

原水爆禁止2000年世界大会に参加して

土浦平和の会会員 藤代ひさい



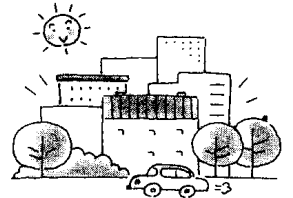
広島駅に降り立つと、高層ビルが立ち並ぶ大都会。しかし、五十五年前原爆が投下され焦土となった広島。原水爆禁止世界大会は汗と涙の毎日だった。幅広い各団体や世界各国の代表の人たちの挨拶で始まり、被爆者からの話「私は山と積まれた死体の上で頭の毛が燃え、手だけがかすかに動いていたところを兵隊さんに助けられた。収容所にて手当を受ける五日くらい意識がなく、片目を残して全身浴衣を裂いた布で包帯されていた。自宅では葬儀が済み四十九日の日に帰宅した。その後も意識がなくなったが、一命を取りとめることができた。しかし、後遺症がひどい。」涙声で時折声がつまる報告。核保有国からの被爆者の話もなんとひどいこと。長崎の被爆者松谷さんの最高裁での勝利の報告に大きな拍手がわく。

原爆遺跡や碑めぐり、広島城天守閣、大本営跡の見学。原爆投下広島全滅の第一報は十五歳の少女であったこと。爆風でユーカリの大木が倒れ、その跡に芽が出て大きくなった話。爆風の恐ろしさの話、原爆ドーム、平和公園。いろいろと説明を聞く。私の立っている下に被爆者が山と眠っていると思うと足が先へ進まず、泣けてたまらなかった。暑かったのだろうと思うが、流れる涙をふくのが忙しく、暑さを感じないほどでした。多くのものを見たり、体で感じてよい経験をしてまいりました。原爆の地広島に集まった私たちは、20世紀の過ちを21世紀に繰り返さないために、核兵器のない平和な世界を・・・

私はこれからも時間の許す限り平和のための運動に参加して参ります。参加についてご協力ありがとうございました。決意を込めて報告とします。 2000年8月

8・15終戦の日を考える市民のつどい盛会!

市観光協会 まちかど蔵所長鶴田重郎さん「戦争と土浦」



恒例の8・15市民のつどいは、今年土浦の終戦前後を体験者から聞こうと、まちかど蔵で鶴田さんのお話を開きました。予科練の生活をビデオをまじえて話される氏は、終戦を郡山の航空隊で迎えましたが、軍隊の特異な雰囲気の中での錯綜した動きも今はもう昔。平和の大切さを説くことも忘れません。

行事ごよみ

- 8・4～6 原水爆禁止世界大会広島大会
(新婦人から藤代・志賀さん参加)
- 8・12 すいとんを食べる会 (ポッポの会 小岩田店)
- 8・15 終戦の日を考える市民のつどい (まちかど蔵)
- 8・20 憲法学習講座 (水戸市国際交流センター)
- 8・22 平和の会理事会 (1中地区公民館)
- 8・30 平和行進県南実行委員会 (つくば)
- 8・31 原水禁報告集会 (1中地区公民館)
- 9・9 県平和委理事会 (水戸市平和会館)

原水禁報告集会

(新婦人土浦支部主催)

に参加しよう

とき 8月31日(木)
午後7時30分から
ところ 1中地区公民館

